

体験博物館 千葉県立房総のむら館報

「房総のむら」は、参加体験型の博物館です。原始・古代から近・現代までの衣・食・住・技の移り変わりを、当時の環境の中で、直接体験することができます。

開館時間 9:00～16:30
休館日 月曜日（休日の場合は開館し、翌日休館）
年未年始（2023年12月26日～
2024年1月2日）
臨時休館日 2023年5月9日、6月6日、
2024年1月5日、2月6日
入場料 一般300(240)円 高大学生150(120)円
※中学生以下と65歳以上無料。
※障害者手帳をお持ちの方と介護者1名無料。

瓦 版

大 木 戸

Kawaraban OKIDO

Vol.70

2023年（令和5年）3月31日

編集・発行
千葉県立房総のむら指定管理者
公益財団法人千葉県教育振興財団房総のむら
〒270-1506 千葉県印旛郡栄町龍角寺1028
TEL.0476-95-3333
<http://www2.chiba-muse.or.jp/MURA/>



風土記の丘資料館外観

令和二年七月から大規模改修工事のため休館していた資料館は、令和四年一月に工事を終了し、その後展示更新作業を行ってきましたが、いよいよ今春、四月二十九日（土祝）にオープンすることとなりました。資料館は、昭和五十一年（1976年）六月に開館して以来、約半世紀にして新しく生まれ変わったわけです。外観は資料館のシンボルでもあった（？）レンガ作りがそのまま残されたので、あまり大きな変化を感じないかもしれませんが、内部は壁・床・天井が新しくなり、照明も全てLEDとなり光り輝いています。更に、館内に来

令和五年四月二十九日（土・祝） 風土記の丘資料館 リニューアルオープン

館者用のエレベーターが設置されました。このエレベーターホール周辺を見ていただくと、特に新しくなった事を実感していただけると思います。

展示室については、一階の第一展示室が大きく変わりました。以前の展示テーマは「房総の古墳と古代の寺」でしたが、「龍角寺古墳群と龍角寺」と新たなテーマとなりました。国内最大級の方墳岩屋古墳をはじめ、大小115基の国史跡龍角寺古墳群、関東地方最古の古代寺院の一つである龍角寺、そして、更にこれに加えて古代の都衙跡がみつかったり資料館のある地域一帯が、飛鳥時代から古代にわたる歴史の中において重要な地域の一つであったことを深く理解していただけるよう、新たに映像・模型・イラスト・説明パネルを加えてわかりやすく、そして最新の研究成果も生かした展示となっています。

二階の回廊・第二展示室では、房総半島の旧石器時代から古代までの人々の暮らしと文化について県内より発掘調査によって得られた考古資料と新たに解説パネルやイラストなどを多数用いてわかりやすく解説しています。考古資料については、新たな資料と多数入れ替わっています。



第1展示室



101号古墳 埴輪展示

新しく生まれ変わった資料館に是非ご来館下さい。お待ちしております。

（風土記グループ 野口）

令和四年度トピックス展 「上総掘りでホリヌキ井戸を掘る」 を終えて「出水」するまで！

前回の大木戸（六十九号）でこの展覧会の様子を掲載しましたが、その後の作業について引き続き報告したいと思います。

七月十六日から始まった掘削作業は、当初、一日の掘削深度は五〇センチメートルに満たないことがほとんどでしたが、徐々に作業に慣れていき、一日の掘削深度は一メートルを超える日も多くなりました。また、掘り進めていくにつれヒゴも伸ばしていき、ついに九月十七日にはヒゴグルマを使用し始めました。誰もが目を引くヒゴグルマがようやく使用された瞬間でした。

九月には、一般参加の掘削体験も始まり若男女問わず多くの方が上総掘りに触れる機会となりました。

しかし、当初の出水予測である掘削深度十七メートルを超えても出水の気配はなく、とうとう会期終了までに出水はありませんでした。トピックス展としては初期の目的を達し終了を迎えましたが、「上総掘りを井戸にして完成させる！」という技術体験者の熱意もあり、掘削作業の延長が決定となりました。

冬の寒さの中、掘削作業を進めていくと、今までにない層に当たりました。鉄管を上げ、中に詰まっていた土を見てみると、色が黒く粒の大きい、砂利層でした。これを見た親方（上総掘り講師）は、「水が出た」と確信しました。

そして最後に、井戸ポンプの設置と足場の解体・再設置し、令和五年二月五日をもってトピックス展「上総掘りでホリヌキ井戸を掘る」は終了を迎えました。

今後は、来館者が体験できるよう井戸周辺の整備など様々な課題が残っています。しかし、実は、この上総掘り技術で、井戸の完成を迎えた博物館は日本でも房総のむららが初ということに驚きました。

千葉県が誇る「上総掘り」の技術は、このままではいずれ技術を持つ職人がいなくなる恐れがあります。そのため房総のむらではこの技術を保存・伝承していくことが今後の重要な課題になると思います。

夏の猛暑から冬の厳冬まで、約八ヶ月の間共に作業した、親方や技術体験者を始めとする多くの方々に感謝申し上げます。

（農家グループ 鈴木）



上総掘り講師の親方と技術体験者

令和四年度 民家展示 「昔のくらし」を終えて

令和四年十月一日から十一月十三日の全三十八日間で行った民家展示「昔のくらし」は、商家町並みにある薬の店と上総の農家でを行いました。

この展覧会では、昭和三十年代から四十年代の高度経済成長期を境に、様々な面で機械や電化製品が登場・普及し、家事労働が大幅に省力化され、短時間で効率的にできるようになった時代に焦点を当てています。

房総のむらでは、一般の方々から多くの生活用品や写真資料の寄贈・提供を受けており、今回はそれらの資料や房総のむらで働く職員からの提供資料を中心に、生活用品や写真から、そのころの『衣・食・住』の昔のくらしを紹介しました。

商家町並みの薬の店では、写真資料をはじめとする昭和三十年代から四十年代の電化製品の移り変わりを展示し、丁度その時代を経験された世代のお客様からは、「昔、我が家にもあったよ」「こつやって使ったよね」と懐かしむ声を多く聞くことができました。子供たちからは、「どうやって使うの?」や「アニメでみた事がある」というように、はじめて目にする展示物に興味を持ち楽しむような様子も伺えました。

上総の農家では、子どもたちが遊んできた玩具や食卓に登場していた食器類、生活の中で使われてきた野良着をはじめとする

衣類を展示しましたが、来館者からは民家をそのまま展示会場に使用してゆつくりと見ることができ、懐かしく居心地が良い雰囲気も感じられ良かったとの感想をいただきました。

展示を終え、展示スペースや展示ケースの大きさや展示物の厳選等、準備に苦勞をすることもありましたが、来館者との交流の中で楽しまれた様子が伺える言葉が聞けたことは今後の糧となりました。

（商家グループ 牧）



上総の農家 展示風景

商家 菓子のお店

「桜餅」

立春を迎えた二月四日（土）・五日（日）、菓子のお店では「桜餅」の製作体験を実施しました。

春を代表する菓子の一つである桜餅は、江戸時代に隅田川堤近くの長命寺の門番が、周辺の桜の葉を利用して売り出したのが始まりだと伝わっています。

実演では、まず小麦粉と白玉粉を水で溶いた生地を作り、それを炭火で熱した銅板でだ円形に薄く焼き上げていきます。見学者は初めて見るこの工程に興味津々です。その後、冷ました生地で餡を包み、塩漬にした桜の葉を巻いて出来上がりです。

関東では小麦粉の生地を使った桜餅が一般的ですが、関西では道明寺粉を使った桜餅が主流です。道明寺粉はもち米を蒸した後、それを干して粗く挽いたものです。体験では、食紅でピンク色に色付けした道明寺粉を蒸した後、餡を包んで俵型に丸め、塩漬にした桜の葉を巻いて仕上げました。しっとりとした生地の関東風、もっちりとした関西風の道明寺、どちらも溶けるようなこし餡と相性の良い春の菓子です。

また、今回「桜餅」の体験で初めて「椿餅」を製作しました。椿の花が咲く二月頃に作られることが多く、あんこを無着色の道明寺生地で俵型に包み、みずみずしい椿の葉で挟んだものです。

『源氏物語』若菜上にも登場する歴史の

古い菓子で、『源氏物語』の注釈書『河海抄』によると、餡ではなく甘（あま）葛（すら）（葛の樹液を煮詰めた古代の甘味料）を使っていたようです。

今回は、関東風と関西風の桜餅、古代から続く椿餅の3種類を体験することができました。暦のうえで春を迎えたとはいえ、まだ寒い日が続いています。体験者は塩漬にした桜の葉を使ったピンク色の菓子を作りながら、間もなく迎える春を感じることもできたと思います。

（商家グループ 宮内）



桜餅



椿餅

上総の農家

「小正月飾り」

房総のむらでは、毎年二月に、「小正月飾り」の展示と体験を行っています。

「小正月飾り」とは、小正月（一月十四、十五日）に木の枝に餅をさして飾り、豊作の姿をあらかじめ作って、豊作の実現を願う予祝行事です。今回は房総のむらで行われている、「小正月飾り」についてご紹介します。

下総の農家では、佐倉市の事例を再現しています。佐倉市では、一月十四日に餅をつき、小さく丸めた白い餅をクリなどの木にさします。飾った木は、座敷に石臼を台にして飾ります。

上総の農家では、大網白里市の事例を再現しています。大網白里市では、一月十四日に餅をつき、ナラの木に丸餅をさします。また、餅の数は奇数で数が多い方が良くとされています。さらに、ウメの木に二〜三個餅を付けたものを神棚に供えます。

安房の農家では、南房総市の事例を再現しています。南房総市では、イボタノキに紅白の餅を飾り付けます。

木に餅を飾り、一年の豊作を願う行事は関東地方や中部地方等日本全国で、行われています。千葉県内では、様々な呼称があります。下総地域では「成り木餅」、上総地域では「木綿（きわた）」、安房地域では「綿団子」等と呼ばれています。

千葉県内では綿が盛んに作られ、特に上

総地域では「上総木綿」と呼ばれる上質な木綿が栽培されていました。上総・安房地域の「木綿」と「綿団子」は、木綿が栽培されていた歴史と関係があるのかもしれませんが。

各地域で飾り付ける木の種類、餅の大きさや色、「小正月飾り」に対する願いは異なりますが、いずれも今年の収穫物の豊作を願う、農家の人々にとっては、大切な行事でした。

今年度、房総のむらでは、上総の農家と安房の農家で「小正月飾り」を行いました。来年度は上総の農家、下総・安房の農家で実施する予定です。

（農家グループ 下村）



小正月飾り（上総の農家）



「ボランティア活動記」 「ツアーガイドボランティア」

房総のむらでは、ボランティアによる無料のガイドツアーを行っています。ボランティアによるガイドツアーには、個人でご参加いただける「定例ガイドツアー」と、団体でお越しのお客様向けの「団体ガイドツアー」があります。

毎月一〜二回行われる定例ガイドツアーは、受付時間にガイドツアーの集合場所まで来ていただければ、どなたでもご参加いただけます。見たい箇所があれば、場所のご指定も可能です。なぜ桶は丸いのか、そば屋の看板に紐が下がっているのは何のため？上総の農家の土蔵の秘密とは……。ただ歩くだけでは分からない、面白い話や情報がたくさんあります。気になったことがあればどんどん質問してみてください。

団体ガイドツアーは、ホームページから団体予約をしていただき、ご来館日の三十日前までにボランティア希望のお申込みが必要となります。

上総の農家では、ボランティアがある展示物を指して小学生たちに問題を出していました。「この入れ物はある植物で作られています。その植物とは何でしょう。ヒント、朝に咲くのは？」「朝顔！」「昼に咲くのは？」「昼顔！」「夕方に咲くのは？」「夕顔！」子供達は元気に答えてくれた後、大きな夕顔の実に驚いた様子でした。他にも昔の道具の使い方、農家の家の作りや機能について、たくさんのお話を聞いていました。



ツアーガイドボランティアの活動風景



(広報・普及グループ 塙)

「定例ガイドツアー」「団体ガイドツアー」とともに、有料エリアの商家の町並みや農家だけでなく、無料の古墳エリアや旧学習院初等科正堂なども周ることが出来ます。何気ない展示にもたくさんさんのバックグラウンドがあります。知識と熱意に満ちたボランティアと一緒に、商家町並みや武家屋敷、農家などの見どころを巡って、房総のむらの奥深い魅力を発見してみませんか。

まつり開催時の注意事項

まつり当日は駐車場が大変混雑いたします。公共交通機関をご利用くださいますようお願いいたします。

また、館内はテント類の設営、ボール等の遊具の持ち込みは禁止です。ご協力の程よろしくお願ひ申し上げます。



◆編集後記◆

寒い季節が過ぎ、だんだんと春らしさを感じるようになってきました。

房総のむらでは、上総の農家の菜の花がきれいに咲き揃い、おまつり広場の桜も見頃をむかえています。この時期にしか見ることでできない美しい景色をぜひお楽しみいただければと思います。

また、風土記の丘資料館のリニューアルオープンが令和五年四月に決定しました。次年度も様々なイベント、展覧会をご用意し、皆様のご来館をお待ちしております。

(広報・普及グループ 水島)

令和5年度上半期のイベント

- 風土記の丘資料館リニューアルオープン
4月29日(土・祝)
 - 春のまつり
5月3日(水・祝)～5日(金・祝)
 - 伝統芸能入門
5月27日(土)
 - 北総江戸めぐり
6月4日(日)松戸市
 - 房総座
6月25日(日)柳家三三落語会
 - 教員のための博物館利用研修会
7月28日(金)
 - むらの縁日夕涼み
8月5日(土)・6日(日)
 - トピックス展「千葉の行商」
9月23日(土・祝)～11月12日(日)
- ※上記以外に多くの実演・体験をご用意しております。詳細は令和5年度体験のしおり、または当館ホームページをご覧ください。